

令和5年度第3回地区・第3回支所合同運営委員会 質疑応答

幡多地区では令和5年度6月、9月、12月と運営委員会を開催しました。そのうち、第3回（12月開催時）の質疑応答をご報告致します。



販売手数料の見直しについて

Q1. 販売手数料は現在2%・利用料2%で幡多地区として合計4%であり、改定後も農家負担は合計4%で変わらないとのことですが、「金額ベース」でも変わりはないのですか。また、今後もJA高知県全体で収支改善が進まなければ手数料・利用料を見直すことになるのですか。

A. 販売手数料・利用料とも市場での販売金額をもとに算出していますので、端数処理の関係で誤差はありますが基本的に金額ベースも変わりません。また、令和6年9月から改定を目指している状況ですので、以降の事はまだ決まっておりません。合併して1JAとなりましたが、手数料・利用料に関しては統一ができていません。販売手数料の見直し案については数年前より検討しておりましたが、今回初めて収支改善統一案として見直すこととなりました。今後につきましては、令和6年6月に開催される第6期通常総代会において、新しい役員体制となった後は、JA高知県の事業全体を統一化していくことになります。

Q2. 販売手数料の見直しについて、園芸部等の生産者との協議はどうか。まずは生産者と協議すべきではないか。

A. 生産部会の代表で組織する園芸研究会ではすでに説明済みです。今後は、年明けより生産部会への説明を開始していく予定です。生産部会との協議と並行して、運営委員会にて現状と収支改善の取り組みを報告させていただいています。

運営委員報酬について

Q3. 運営委員の報酬で、年間報酬を止めるというのは幡多地区だけなのですか。また、決定事項なのでしょうか。

A. 幡多地区運営委員会でも同様のご意見があり、今回（案）として年間報酬を廃止したらどうかという事でお話させていただきました。年間報酬5,000円を止めて日当を5,000円から一律7,000円に変更する案です。支所運営委員会で協議し、地区運営委員会を経て、本部に意見を上げるので、まだ決定事項ではありません。

店舗再編について

Q4. 店舗再編について、中村支所と宿毛支所を比べたときに、宿毛支所は三崎出張所・三原出張所・大日出張所の3出張所・宿毛東事業所を統括することになり負担が大きくなると思う。中村支所は地区本部と隣接している所以对応がしやすいが、宿毛は離れているので宿毛支所長を補佐する体制整備が必要と思うがどうか。

A. 再編後に宿毛支所は大きな規模となり、支所管内も広がりますが、出張所となる現在の支所長は出張所長という形で存置しますし、出張所長と支所長が連携を取りながら運営していきますので、宿毛支所長に大きな負担がかかるとは考えていません。

宿毛支所管内より



食農教育活動

宿毛4Hクラブ・青壮年部幡西ブロック

宿毛市立小筑紫小学校で開催した宿毛4Hクラブによる食育活動は、全校生徒や先生、保護者が参加しました。同クラブやJAの青壮年部員の他、市、高知県幡多農業振興センターが参加。始めに同クラブ会員の宮本隆さんが「私が農業を始めた理由」と題し講演をしました。参加した児童は「小学生から百姓になると決めていてずっと続けているのです」と感想を話しました。その後、子どもたちは餅つきをしたり、宿毛産のイチゴ「さがほのか」やミカンを餡と一緒に包み大福を作ったり、お餅入りぜんざいを食べて楽しいひと時を過ごしました。



幡多地区

から こんには
今月の〇〇 気になる人

宿毛支所より



平田小学校3年生がイチゴ「おおきみ」見学

宿毛市立平田小学校の3年生8人が、地域の良いところを探し学ぼうとおおきみ部会の野口典久会長のハウスを訪れ、おおきみのほ場を見学しました。ハウスに入ったとたん「わーすごい」と歓声が上がりました。野口会長はおおきみについて説明し、子どもたちは一生懸命メモを取ったあとタブレットで撮影をしていました。子どもたちは「なぜイチゴのお仕事を始めたのか」や、ハチの役割についてなど質問し野口会長はていねいに答えていました。また、もぎたてのイチゴを配り、子どもたちは初めてのおおきみを「食べるのがもったいないね」と言いながら味わっていました。



大方支所管内より

長さを計測中

完成!



いただきます!

入野小学校で長手巻き作り

黒潮町農業委員会と女性部大方支部

入野小学校5年生15人と、6年生24人が長手巻き寿司に挑戦しました。同委員会は食農教育として女性部大方支部と協力し、毎年町内の小学校で行っています。コメは5升分、寿司の具材はキュウリ、かんぴょう、ニンジン、玉子、ゴボウ、カニカマ。6年生が野菜を切り下準備をしました。記録は19m30cm。子どもたちは1本の長い長い手巻き寿司を完成させ大いに喜びました。

お楽しみの会食では手巻き寿司の他、サラダ、豚汁、サツマイモの茶巾しぼりなどが振舞われ、その材料のほとんどは黒潮町産のもの。農業委員会は「皆さんがあたりまえに食べていることが、あたりまえでない国や地域があることを知って。安心・安全が貴重なものなんだと覚えてほしい」と呼びかけました。

幡多地区より

優勝を獲得したグレ



タマメ (ハマフエフキ)



青壮年部幡多本部主催 第16回釣り大会

1月18日、少し雨が心配な曇りの日。青壮年部員や事務局の皆さんは早朝6時30分ごろ出港しました。17人が参加。決戦の場所は大月町柏島。部門は「グレの部」と「他魚の部」。「グレの部」は重さ、「他魚の部」は体長で順位が決まります。

今日は大漁! というわけにはいかなかったそう。ベテランも苦戦したようです。そんな中、優勝者はグレを2尾釣り上げ総重量は2.45kg。おめでとうございます!

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



剪定を学ぶ参加者の皆さん。

1 幡多地区 クリ・ナシ 剪定講習会



高知県果樹研究協議会は1月16日と17日の2日間、クリとナシの剪定講習会を開きました。両日とも生産者、高知県農業技術センターやJA、高知県農業振興センターなど約40人が参加しました。

初日はJA高知県高西地区の窪川管内で講習を行った後、幡多地区西土佐支所栗部会の田辺次男部会長の園地で実施。この講習会は毎年行っており、同部会は剪定と生長の経過が分かるように昨年と同じ木を使い、クリの品種「筑波」で実践しました。県農業技術センターは「太陽光にあてるため枝同士が重ならないように剪定を」と説明しました。田辺部会長は「剪定は質の向上、量産していくためには必要。園地全体に枝が広がるように。低樹高だと作業もしやすくなる」と呼びかけました。

17日の四万十市管内で開いたナシの剪定講習会では、火傷病が確認されたことにより中国産花粉の使用禁止を受け、県農業インベシヨン推進課が「産地が一丸となって花粉を増産し結実確保に取り組みましょう」と熱意を込めました。剪定は樹齢約20年のナシの品種「新高梨」で実践。同協議会は花粉確保を見据え説明を加えながら剪定や検枝をして次年度に備えました。

4 大方支所 イチゴ「さちのか」目慣らし会



出荷されたレギュラーパックを確認する部員の皆さん。

大方支所毎部会は1月19日、目慣らし会を行いました。部員、高知県幡多農業振興センター、JA販売課など11人が参加しました。

さちのかは酸味と甘味のバランスが抜群で糖度も高く、イチゴ本来の風味を味わえます。幸の香りと品名にもなっている様に極上の香りも合わせて楽しんでいただけます。同部会は8人が所属し収穫は12月から5月ごろまで。最盛期を迎えレギュラーパックの詰め方などの注意事項を確認しました。部員は「30年やっても毎年生育や収量が上がる。苗に左右される。今年は苗が良かった」と話し期待を込めました。出荷は県内で地元のスーパーマーケット等で購入できます。

6 三崎支所 ポンカン出荷 昨年よりも収量多め



傷みがないかチェックするスタッフ。

三崎支所では例年よりも少し早めの初出荷で今年は1月24日でした。収穫は12月ごろ行い1ヶ月ほど各自で保存し熟成させてから出荷します。

1月31日、朝から同支所選果場では職員やスタッフ8人が検品や等級別に箱詰めをしていました。この日は生産者の内原照久さんが出荷したものを。作付面積50aでポンカンなどを家族で栽培しています。今年の出来について、「秋の少雨で実が太りたいために太れなかった」と話していますが、昨年よりも全体的な収量は多いとのこと。出荷先は主に関西。同支所販売課によると昨年の出荷量は約14t。今年は約15tを見込んでいます。

2 宿毛支所 文旦出荷開始 糖度のり出来上々！



選果場は文旦のさわやかな香りに包まれていました。

宿毛みかん選果場では1月中旬、文旦の出荷が始まりました。全国的にも主要な文旦の産地である宿毛市は温暖で温和な気候。この特長を活かし同支所文旦部会では木なりに完熟させます。収穫まで根から吸う栄養を果実に蓄えることで余分な酸が抜け糖度が増します。同選果場に集まった文旦を光センサー選果機で大きさ、形、糖酸度を選別します。果形が良く糖酸度のバランスがとれたものは、ブランド「だるま文旦」として出荷しています。

幡西農業センターの宮部慎也指導員は「今年是小玉傾向であるが糖度がのっている。出荷量も期待できる」と話しました。出荷は3月中旬まで続きます。

3 西土佐支所 ナバナ 各地で 目慣らし会・現地検討会



ナバナを収穫する五味さん。

西土佐支所では毎年、1月下旬に4日間、管内各地区を巡回し現地検討会と目慣らし会を開催しています。はじめに目慣らし会を開き、販売課が市況の報告や出荷規格等の説明をした後、岡村交将指導員が「今年には雨が少なく気温が高い、これまでにナバナにとってストレスが多かった」と話し、今後の肥培管理等の説明をしました。また、部員らで引き合いの強まる桃の節句の時期へ意気込みました。

夏は米ナス、冬の間はナバナを栽培する五味文博さんはナバナの品種「花かんざし」を収穫していました。10月下旬に定植し、収穫は12月上旬から3月初めまで続きます。

5 中村支所 おおきみ目慣らし会



部員が出荷した化粧箱を注視する部員のみなさん。

中村支所おおきみ部会は1月10日、ブランドイチゴ「おおきみ」の出荷が本格化したことから目慣らし会を開きました。

部員らは検品後の化粧箱とレギュラーパックを厳しくチェックしながら意見を出し合いました。化粧箱の規格は9玉、12玉、15玉入りの3種類。1玉ずつフルーツキャップで囲い、ヘタの出し方や玉の向き、同一の熟度でそろえるなど、いくつかの厳格な基準を部会内で設け徹底しています。検品する同支所販売課はわずかな瑕疵も見逃さない態度により高品質を維持しています。部会と販売課は化粧箱と同様の品質を保つよう確認しました。同部会野口典久会長は「色付きを良くする為には、葉の陰から果実を出してよく日を当てることと、温度管理も大切」と注意を促しました。

7 宿毛支所 すくも文旦育成会が表敬訪問 おいしい文旦を全国へ



報告を聞いて文旦を手に笑顔を見せる中平市長。左から3番目

「すくも文旦育成会」は1月26日、中平市長を表敬訪問しました。会員や市、JAなど人が参加し文旦の試食も行いました。成田憲生会長は例年に比べ秋に雨が少なかったこともあり小ぶり傾向だが、糖度があり味良くてきた。今年も全国においしい文旦をお届けできると報告しました。

同会はJA出荷、個選合わせて18人が所属し土佐文旦の育成技術の伝承や土佐文旦の振興に取り組み農業者団体、同市のふるさと納税では文旦が最も多い寄付返礼品であり同市をPRする重要な存在となっています。

中平市長は「若い世代が継承し切磋琢磨しながら宿毛文旦の振興に取り組んでおり、少しずつ生産者も増え認知度も拡大している。これからの地域と共に一丸となって宿毛を盛り上げてほしい」と激励しました。

初心者（家庭菜園）向け コールラビ



栽培のポイント

- 冷涼な気候を好み生育適温は15～20℃、キャベツよりも低温や高温に強く、育てやすい。
- おいしくするには、肥沃な畑で、肥切れさせないで育てる。
- 球茎を肥大させるため、下から横に向かって出る葉は順次切り取る。
- 収穫が遅れると球がかたくなり、すじっぽくなるのでとり遅れないように。

●:は種 △:定植 —:生育 ■:収穫

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
春まき栽培		●		△	—	■						
夏まき栽培				●		△	—	■				
秋まき栽培					●		△	—	■			

① 畑の準備

- 種まきの1か月くらい前に石灰をまき、20cmくらいの深さによく耕しておく。
- 種まきの2週間くらい前に畝全体に元肥をばらまき、15cmほどの深さに鋤き込む。
1㎡あたり
堆肥 7～8握り
油粕 大さじ5杯
千代田化成 大さじ4杯

② 種まき・苗づくり

- 20cm間隔で溝を作り、2～3cm間隔で条まきする。覆土の厚さは5～6mm。
- ※少ない株数なら、ポリ鉢に種をまいて苗づくりをして植えつけてもよい。
3号ポリ鉢に3～4粒まき、本葉2～3枚の頃に1本立てに。本葉5～6枚に仕上げたら畑に植え付ける。

③ 植えつけ

- 30cmの株間をあけて植えつける。
- ※高温期は害虫がつきやすいのでべた掛け資材で被覆する。茎が少し肥大し始めたら取り除く。

④ 間引き

- 第1回 本葉2～3枚の頃、株間5～6cmに。
- 第2回 本葉4～5枚の頃、株間20cmに。
- ※葉が横に広がるので株間を広く取る。

⑤ 追肥

- 第1回 1回目の間引き後、株間に施し、軽く土に混ぜ込む。
- 第2回 2回目の間引き後、前回と同様に施す。
1株当たり 千代田化成 大さじ2杯

⑥ 摘葉（欠かさずに行う）

- 茎の横から出た葉は2～3cm残して切り取り、茎の肥大を促す。
- 上方の葉5～6枚は必ず残す。

⑦ 収穫

- 球径が7～8cmに肥大したら、根から引き抜いて収穫。
- 球の下部1cmくらいはかたいので取り除く。



役立つ! 得する! 情報 えいのう〜

幡多農業振興センターより

カイゼンの取り組み

■カイゼンとは?

生産現場において作業内容や人・物の動きを見直すことで、作業や経費などのムリ・ムダ・ムラをなくし、作業の効率化や安全性を向上させる取組のことです。製造業を中心に実践されていましたが、農業分野や事務業務でも応用が進み、生産性の向上につながっています。

今回は、カイゼンの入り口の手法といわれている「5S」についてご紹介いたします。

■「5S」とは?

「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の頭文字となる5つのSを意味します。

① 整理

まず、現場にある資材・道具について、本当に必要なか、使う頻度は多いか・少ないか等で分類していきます。



② 整頓

①で必要と判断した資材・道具について、使う頻度によって置く場所を変えてみます。棚等に置く場合は、どこに・何があるのか、メモや写真等を使って一目でわかるようにします。



③ 清掃

ゴミや汚れがないように掃除を習慣化します。



④ 清潔

「整理」、「整頓」、「清掃」された状態を維持します。



⑤ しつけ

全員がルールや注意点をいつでも確認できるように、チェック表やマニュアルなどを作ります。もし作業しづらい場合は、全員で話し合っルールを変えていきます。



■カイゼンはみんなで話し合いながら進める取り組みです。

今回は、カイゼンの導入部分について簡単に紹介させていただきました。

幡多地域の農業の生産現場でも、収穫、選果、箱詰めなどの工程において、作業者の技術や作業効率の向上を目指して、作業場のレイアウト（資材を置く位置等）の変更、使用する道具等の見直しといったカイゼン活動を行っています。

カイゼンは、普段繰り返している何気ない動作を作業者全員で一緒に振り返り、他のやり方がいいかも、と作業の不便さに気づくことから始まります。皆さんも、まずは整理整頓から取り組んでみませんか。

お問い合わせ先
幡多農業振興センター 和田 (TEL. 0880-34-7070)

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

若い頃、宇佐に勤めていた時に、よく立目のポンカン
を頂きました。甘くて美味しかったことを思い出しま
した。なつかしい思い出でした。

(大方支所管内・70歳)

口鴨川地区では昔(40年くらい前)温州みかんを栽培し
て、ハツサク、文旦、ポンカンなどたくさん品種を栽
培していたことを思い出します。今は、鹿、イノシシの
害が多く、後継者もいなくなったのでみかんの山は荒れ
はてています。残念な事です。

(中村支所管内・60代〜90代団体)

ポンカンと言えば、昔はどの家でも少しずつみかんを
植えていて、ポンカンは11月に採り甘くなるのを待つ
て食べるのでとても待ちかねたのを思い出します。

(中村支所管内・76歳)

▼1月号は安芸地区の「土佐よさこいポンカン」を特集
しました。甘くておいしいポンカンを食べることができ
るのは、生産者や同じ方向を向く関係機関のみさま
の努力の賜物と思いました。三崎支所管内の土佐清水
市が県内で生産量2位(R4年産)となっており、同支
所果樹部会では視察などを行っています。

私の村では山椒餅などというものをこの年まで聞い
たことがなかったので驚きました。

(宿毛支所管内・87歳)

まだ行ったことはないのですが、昨年オープンした佐
川の道の駅には興味があつて早くいかなければと益々
思いがつのりました。

(宿毛支所管内・61歳)

仁淀川地区の「まきのさんの道の駅・佐川」の山椒
餅を食べてみたいなと思いました。

(宿毛支所管内・86歳)

山椒餅知りませんでした。暖かくなったらぜひ行って
食べたいですね。

(宿毛支所管内・71歳)

まきのさんの山椒餅をぜひ食べてみたい。

(三崎支所管内・90歳)

らんまんでまきのさんが大好きになりました。ぜひ
佐川へ行ってみたいと思います。

(中村支所管内・74歳)

▼1月号で道の駅・佐川の「山椒餅」をご紹介しますし
た。味の想像がつきそうではない。ぜひ私も食べた
いと思っています。

昨年、柿の木の枝を切り落としたのですが、切る時期
が悪かったのか、秋になっても柿の実が1個しかなりま
せませんでした。切る場所や時期があるのでしょいかね。

(宿毛支所管内・60歳)

▼営農指導員によると、切る時期は葉が全部落ちた12
月〜2月ごろ。3月は新芽が出て来ているのでおススメ
しないそうです。花芽は充実した新梢の枝先につくこと
が多いため、充実した前年枝の先端は切らない方がよい
です。樹冠内部に日が当たるように不要な枝を除去す
ることです。来年以降実施してみてくださいね！

イラストコーナー



「スイレンの花」
(三原出張所管内・74歳)

大型特殊免許（農耕車限定）について

長さ4.7m、幅1.7m、高さ2.0m(ヘッドガードがある場合は2.8m)を超え、15キロ/時を超える速度が出せる農業機械で公道を運転する際は大型特殊免許が必要です。

高知県農業機械協会では水稻の農繁期を除き、免許センター等の関係各所と連携して一般試験を開催しています。お申し込みは常時受け付けていますので、最寄りのJA農機センターまでお申し込みください。

試験料 2,600円 (免許センターに支払い) **トラクター利用料** 1,450円 (試験のみ)

免許交付手数料 2,050円 (合格した場合)

※事前講習会も実施しています。詳しくは下記までお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ受付先 JA高知県 幡多地区 農機センター
中村：0880-32-1113、宿毛：0880-63-3601、西土佐：0880-52-2313